

用紙をリユースできる 「消せるトナー」



特徴

1 消える原理はフリクションボール

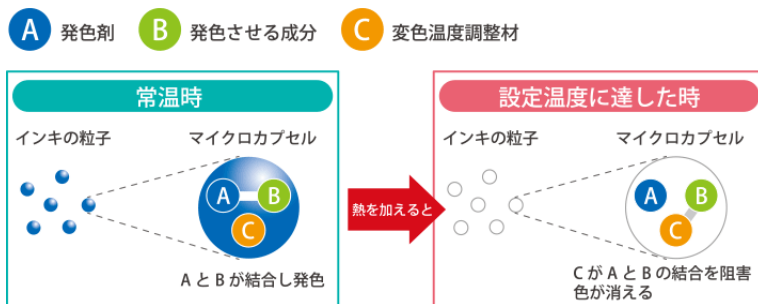
「消せるトナー」の色が消える原理は、「フリクション」シリーズと同じ。それもそのはず、「トナーの色を消して用紙を再利用できないだろうか」と考えた東芝テックの複合機開発チームが、「フリクションボール」にインスパイアされて開発に着手したからです。



特徴

2 フリクションの消える仕組み

消せる仕組みを担うのは「フリクションインキ」。「発色剤」と「発色させる成分」、「変色温度調整剤」をマイクロカプセルに収め、インキの色材としています。常温では、「発色剤」と「発色させる成分」が結びついて発色していますが、設定温度を超えると「変色温度調整剤」の働きにより、「発色剤」と「発色させる成分」が分離して色が消えます。



特徴

3 変色温度調整剤の温度幅

トナーは数ミクロンの粉状の物体です。これに熱を加えることで紙に定着させます。フリクションインキは熱によって透明になるので、定着のための加熱では透明にならないように工夫する必要があります。さらに、消せるトナーでプリントした文書が、陽に当たったからといって消えては困りますし、エアコンで冷えたからといって消したはずの文書が読めるようになって困ります。その鍵を握るのが変色温度調整剤。とても大切な働きをしているのです。
※「フリクション」は（株）パイロットコーポレーションの登録商標です。

詳細はコチラ